

大塚久雄 (おおつか・ひさお) 1907～1996

～ 社会科学与信仰の融合者 ～

出生 1907年5月3日京都市助役・湯浅蓄電池重役大塚英太郎の次男として京都に生まれる

履歴 京都第一中学、第三高等学校を経て、東京帝国大学経済学部経済学科卒業(1930年)、東京帝国大学経済学部助手(1930-33年)、中央大学講師(1933年)、法政大学教授(1938年)、東京帝国大学経済学部助教授(1939年)を経て、同教授(1947年)となる。東大退官後、国際基督教大学教授(1970-1978年)に就任。文化勲章受賞(1992年)

事績 学生時代に三木清の哲学を媒介に経済学としてのマルクス学説に惹かれて行くが、信仰とマルクス主義についての苦悩を内村鑑三に告白。逆に激励を受ける。

「日本資本主義論争」では講座派理論の影響を受けたが、論文「所謂前期的資本なる範疇について」で批判的な立場をとる。同じ時期に客員教授のクルト・ジンガーの講義に出席しウエーバー理論の本質に目覚める。戦後、大塚史学と呼ばれる大塚学説は次の様に見ることが出来る。西洋経済史研究では、従来通説であった商業主導説の批判と中産的生産者主導説に基づくイギリスのマニファクチャーの実証的研究を通じて理論的にも西洋経済史学を確立し、その際、近代的資本家と近代的労働者の両者が「資本主義の精神」の担い手として近代社会を形成していくという近代的人間類型論学説を主唱した。方法論の分野では、マルクス唯物史観の公式を批判し、上部構造論のウエーバー理論による補完を提起した。

戦後、大塚はドイツ経済史の松田智雄、フランス経済史の高橋幸八郎とともに「大塚学派」として論壇、学会ををリードして行くことになる。

評価 「大塚史学」の形成者として西洋経済史研究に一つの時代を築いた大学者。戦後啓蒙期には封建から近代への人間類型確立による日本社会の变革の理論として重視された。また、丸山真男、川島武宜らとともに戦後の論壇に多大の影響をあたえた。戦後すぐ共産党系知識人(豊田四郎、服部之総を中心)による近代主義批判の対象になる(プチブル理論批判)。いわゆる大塚学派(高橋幸八郎、松田智雄)の中心人物。

代表作

『近代欧州経済史序説』(1944年) オランダ衰亡とイギリス興隆の原因を国民的生産力の違いに求めマニファクチャーとその担い手である中産的生産者層をその根拠とする。

『共同体の基礎理論』(1955年) マルクスの社会発展段階論の大塚理論による再整理。

『社会科学の方法』(1966年) 唯物史観の公式の批判とウエーバーによる補完の必要性を説く。

キーワード 中産的生産者主導説 近代資本主義の成立を従来の商業資本による生産者の組織化(問屋制商業資本)でなく農村のマニファクチャーに求める立場。

近代的人間類型論「伝統主義の精神」に対抗する「資本主義の精神」の根拠となるもの。伝統にとられない合理的実践的能力と労働を義務とする内向的な態度を特徴とする。

ポイント 「大塚史学」は始めは悪口だった。今では「大塚史学」といえば、アカデミズムの典型で大ブランドなわけだが、住谷一彦(「歴史への視線」p7～8)によれば、戦後初期の左翼論壇のなかでの罵倒用語というのが始まりらしい。当時の共産党理論家の豊田四郎の造語。

神奈川 1944年3月相模湖町与瀬に疎開。学者仲間から疎開仲間の川島武宜、飯塚浩二とともに与瀬グループと呼ばれた。

最期 1996年7月9日東京の自宅で老衰のため死去。享年89歳。



濱谷浩撮影

Great Works 39

大塚久雄著作集 全13巻 岩波書店 1969～86 <308/52>

解題 本書の初版刊行の辞には「本著作集十巻は、先生の学問的業績を総括すると共に、それを生み出した先生の思想と人格との全貌を伝えるべく編纂されました。したがって、主著のみでなく、随想その他の短い文章も、この観点から見て逸することのできないものは洩れなくこれを収録し、さらに、先生を熟知する諸先生によって、全体は問題別に分類され、体系的に配列されました。」と記述されて

いる。1969年版は全10巻、1986年の再刊時に3巻増補され全13巻となった。

内容

- 第1巻 株式会社発生史論 [有斐閣 1938.2]
- 第2巻 近代欧州経済史序説 [時潮社 1944.2] 欧州経済史序説 [時潮社 1938.12]
- 第3巻 近代資本主義の系譜 [学生書房 1947.4]【論文】前期的資本の歴史的 성격 ほか4編
- 第4巻 資本主義社会の形成 欧州経済史 [「経済学全集7」弘文堂 1956.11] 「西洋経済史講座」(緒言, 資本主義の発達・総説, 全五巻完結にあたって) [岩波書店 1960~62] <対談> レンブラント ほか7編
- 第5巻 資本主義社会の形成 資本主義社会の形成 [「社会科学講座4,6」弘文堂 1951.1,3]【論文】「農民層の分解」に関する基礎的考察 マニファクチャーの検出 ほか14編
- 第6巻 国民経済 [弘文堂 1965.4]【論文】オランダ型貿易国家の生成 現代日本の経済史的考察 [「学問と現実」東大協同組合出版 1947.4] ほか9編
- 第7巻 共同体の基礎理論 [岩波書店 1955.7]【論文】共同体解体の基礎的条件 マックス・ヴェーバーのアジア社会観 ほか8編
- 第8巻 近代化の人的基礎 【論文】マックス・ヴェーバーにおける資本主義の「精神」 近代化の人的基礎 宗教改革と近代社会 [みすず書房 1948.5] マックス・ヴェーバーにおける宗教社会学と経済社会学の相関 ほか15編
- 第9巻 社会科学の方法 [岩波新書 1966.9] 【論文】社会変革とはなにか <Betrieb>と経済的合理主義 思想史的方法論 ほか19編
- 第10巻 信仰と社会科学のあいだ・補遺・その他 真理への畏敬 ほか28編
- 第11巻 比較経済史の諸問題 【論文】経済学とその文化的限界 日本の近代化と社会科学 いわゆる問屋制度をどう捉えるか 総説後進資本主義とその諸類型 歴史と現代 ほか14編
- 第12巻 社会科学とヴェーバー的方法 社会科学における人間 [岩波書店 1977.6] 【論文】マックス・ヴェーバーにおける資本主義の精神再論 社会科学を学ぶことの意義について ほか11編
- 第13巻 意味喪失の文化と現代 内容: 金銀は我になし 信仰の眼で歴史の深い意味を 私の歩んできた道 ほか23編

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- 📖 大塚久雄と丸山真男 / 中野敏男著
青土社 2001年 339,8p <331.21KK / 19> 資料番号 21432794
- 📖 歴史への視線 - 大塚史学とその時代 / 住谷一彦・和田強編
日本経済評論社 1998年 328p <332.01GG / 4> 資料番号 21097407
- 📖 ヴェーバー・ゾムバルト・大塚久雄 / 小笠原真著
昭和堂 1988年 248,9p <361.2X / 101> 資料番号 20029575

<雑誌論文>

- 📖 「国民主義」・「国家主義」・「超国家主義」 - 大塚久雄の「ナショナリズム」論をめぐって / 柳父圀近著
法学(東北大学) 66(2)[2002.6] <Z320 / 573>
- 📖 「アジア的共同体」概念の成立根拠 - 大塚久雄氏の所説によせて / 小谷汪之著
思想(岩波書店) 685号[1981.7] <Z051 / 5>
- 📖 方法としての人間類型論 - 大塚久雄「社会科学における人間」(思想と潮流) / 長幸男著
朝日ジャーナル(朝日新聞社) 19(36)[1977.9.9] <Z051 / 16>
- 📖 大塚久雄とその時代(戦後の思想家 - 過ぎた時代の問いかえし) / 飯沼二郎著
思想の科学(思想の科学研究会)第6次(通号36)[1974.9] <Z051 / 14>
- 📖 比較経済史学における産業構造論の意義 大塚久雄氏の最近の業績を中心として / 楠井敏朗, 滝沢秀樹著
歴史学研究(歴史学研究会)(通巻334)[1968.3] <Z205 / 4>
- 📖 大塚久雄他著「マックス・ヴェーバー研究」 / 堀米庸三著
史学雑誌(史学会) 75(4)[1966.5] <Z205 / 1>